女性の悩み オープンに

月経や更年期 商品や講座好評

女性ホルモンのバランスの変化に伴う不調や悩みをオープンに相談できる環境を作ろうと、百貨店や薬局、企業が取り組んでいる。女性の社員や薬剤師らが発案し、心身のデリケートな変化に応じた商品を提供するなど、快適な生活を送るサポートを行っている。
(満田育子、斎藤七月)

■専門売り場

大阪市北区の大丸梅田店は11月下旬、女性の悩みに応じるゾーン「ミチカケ」を5階に開設した。女性の周期を月の満ち欠けにたとえて名付け、17店舗を集めた。「ブルー期」(月経中)、「キラキラ期」(月経の後)、「まったり・もやもや期」(次の月経に向けての不安定な時期)の三つの時期に分けて商品やサービスを用意し、女性スタッフが応対する。

店舗の一つ、「エミリーウィーク」は、それぞれの時期に合う、肌への刺激が少ない天然繊維の肌着などを置く。また、漢方をテーマにした「デイリリー」(本店・台湾)では、体の冷えやイライラなどの症状を和らげるための薬膳茶や食品などが試せる。直接経血を吸収するサニタリーショーツや、膣(ちつ)に入れて使う「月経カップ」など、ナプキンやタンポンに代わる新しい生理用品を扱う店もある。

「ミチカケ」に企画段階から参加する大丸梅田店の高橋知世さん(34)は「女性が言いにくい悩みに応えるサービスが、百貨店で実現できれば」と感じていたという。開設後は幅広い年代の客が訪れ、妊娠や出産、更年期、性の悩みなど、様々な相談を受ける。「新しい試みに不安もあったが、予想以上に反応が良い」と話す。

「ミチカケ」の店舗では、月経の時もおしゃれできる肌着を販売している(大阪市北区で)

■薬局で気軽に

大阪市中央区の薬局「レディーファーマシー」は、薬剤師の津田充加(みか)さん(34)と坂野実加さん(33)が2016年に「女性特有の悩みに寄り添いたい」と開業した。処方箋なしで購入できる痛み止めなどの医療用医薬品や漢方、性交痛に対するケア用品なども扱う。店頭のほか、無料通信アプリ「LINE」でも相談を受け付け、全国の登録者は約1400人に上る。

津田さんは、婦人科を受診した際に男性薬剤師から説明を受けることに抵抗感を抱き、「女性に選ばれる薬局があれば」と思ったという。「適切な対応でつらい症状は改善する。悩みを気軽に話してほしい」

■企業向けにも

健康支援に関する事業を手がけるドコモ・ヘルスケア(東京)は2016年11月、産婦人科医らを企業に派遣し、月経に伴う不調など女性の健康について学ぶ

女性特有の心身の悩みの相談に応じる津田さん(右)と坂野さん(大阪市中央区で)

隠す風潮に変化

こうした動きについて、日本産科婦人科学会代議員であるこうむら女性クリニック(大阪市)の院長、甲村弘子さんは「女性が社会で活躍するためにも必要」と歓迎する。

月経に伴う症状が原因で仕事を休む、労働の量や質が低下するといった経済的損失が多額に上ると指摘する調査もある。「悩みが社会でなかなか理解されず、月経であることを隠そうとする風潮があった。働く女性が増えたことで、意識の変化が起きている」とみる。

甲村さんは「様々なサービスを利用することで女性が心身の変化や不調に対処し、健康管理できるようになるといい」と話している。